

2024 年度第 8 回価格審査会の開催について

2024 年度 8 回価格審査会が開催されましたので、議事概要についてお知らせいたします。

この価格審査会は、外部の有識者によって、当財団が発刊・公開する定期刊行物等の掲載価格について、その客観性、妥当性の審査を行うものです。

開催日時	2024 年 11 月 14 日(火) 10:00~12:00
場 所	本部 6F 大会議室
委 員	松田 寛志 日本工営株式会社 流域水管理事業本部 本部長 遠藤 和重 一般財団法人日本建設情報総合センター システム事業部門 コリンズ・テクリスセンター長 栞原 圭一 東日本建設業保証株式会社 業務部 副部長 鈴木 由香 株式会社日本設計 コスト設計部長 星野 正 東日本旅客鉄道株式会社 東京建設プロジェクトマネジメントオフィス プロジェクト支援ユニット プロジェクト予算 マネージャー(総括)
当 会	共通資材調査部 部長：大澤 勝、次長：小林 法雅 建築調査部 部長：高橋 俊一、次長：岩井 卓矢 監査審査室 室長：黒澤 昭浩 調査統括部(事務局) 部長：柴尾 治、課長：本間 哲

2024 年度第 7 回価格審査会議事録(案) 確認

2024 年度第 8 回価格審査会審議資料説明

審議資料の説明
1. 「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号の価格動向
・価格が上伸した資材（工事費） 【Web 建設物価】 レディーミクストコンクリート（紋別市ほか15 都市）、道路用砕石類（飯田市ほか18 都市）、再生砕石類（大津市ほか4都市）、PHCパイプ（札幌市ほか9都市）、アスファルト混合物（奈良市ほか7都市）、ストレートアスファルト（札幌市ほか56都市）、コンクリート積みブロック（滑面）（富山市ほか1都市）、鉄スクラップ（札幌市ほか57都市）、非鉄スクラップ（新潟市ほか3都市）ほか
・価格が下落した資材（工事費） 【Web 建設物価】 異形棒鋼（青森市ほか47都市）、H形鋼（青森市ほか45都市）、等辺山形鋼（青森市ほか45都市）、鋼板（岐阜市ほか11都市）、再生砕石類（市川市ほか8都市）、一般建築用木材（全国）、コンクリート型枠用合板（全国）、構造用合板—J A S 品—（札幌市ほか14都市）、燃料油（札幌市ほか9都市）ほか
2. 比較資料
・企業物価指数、モニター調査結果、業界紙との比較結果について説明

審議事項	委員の意見、質問	建設物価調査会説明・回答
質問 1	入稿情報表の「公共施設用照明器具 (LED 灯)」及び「安定器」等の照明器具について、値上がりするタイミングが異なる要因は何か。	照明器具メーカーは全般的に値上げをしているが、値上げ浸透のタイミングは、需給状況等により異なっている。値上げ浸透の確認がとれたものから迅速に誌面へ反映しており、当月は「公共施設用照明器具 (LED 灯)」の一部製品と「安定器」を反映した。
質問 2	主要建設資材の需給及び価格動向の「異形棒鋼」と「H 形鋼」について、札幌地区が横ばいであるのに対し、他の地区は下落となっている要因は何か。	「異形棒鋼」は地域性の高い製品であるが、札幌地区は供給メーカーが限られるため本州に比べ競合性が低く現状価格が維持されている。また「H 形鋼」は道内にメーカーがなく本州からの調達となるため、本州に比べ輸送コストが高止まりしやすい傾向にあり、「異形棒鋼」同様競合性が低く現状価格が維持されている。
質問 3	主要建設資材の需給及び価格動向の東京地区において、鉄と生コンの需給および価格を比較すると、どちらも大型案件を控えており需要面では同じような状況であるが、鉄の価格は下がって、生コンの価格は下がらないのはなぜか。	需要面が似た状況下で、価格動向が異なる要因は、流通経路や競合の有無などの違いによるものである。生コンの販売価格が下落せず維持できているのは、生コン協同組合を設立しており組合内で競合が起こらないためである。
質問 4	針葉樹類で大幅な価格変動があった地区はどこか。またその地区で変動が大きくなった要因は何か。	樹木は地区別の変動率の差異よりも、樹種別の需給による変動率の差異が大きい。なお変動率は、苗木からの生育速度や需給バランスにより異なる。
質問 5	異形棒鋼や H 形鋼が北海道地区を除いて全国的に値下がりしている。その補足コメントに「需要減少による販売店間の受注競争が激化」とある。大型工場や再開発等で局地的に需要が盛り上がっている地区もあるはずだが、その地区でも値下がりするのか。	半導体工場や再開発大型物件などで局地的に需要が増加している地区もあるが、これらはメーカーとの直接（ひも付き）契約で調達する部分もあり、全般的には需要を下支えする中小物件の動きが悪いことから、需給にひっ迫感はなく、全国的に市況は弱含みの傾向にある。
質問 6	非鉄スクラップ・アルミの値上がりに対する補足コメントに「国際相場の上昇を背景に上伸」とある。国際相場の上昇による影響は全国的であると思われるが、値上がり地区が 4 都市にとどまっている理由は何か。	非鉄スクラップ・アルミの国際相場の影響は全国的であるが、非鉄スクラップ・アルミは流通量が少ないため、取扱業者が買い取り価格を国際相場に細かく連動させず、価格を変動させない場合がある。その結果、地域ごとに価格差が生じることがある。

質問 7	レディーミクストコンクリートの東京地区では、出荷ベース契約が浸透し始めているとのことだが、他地区の状況はどうか。	レディーミクストコンクリートの契約形態は出荷ベースと契約ベースの2種類あり、全国で見ると出荷ベースが約4割、契約ベースが約6割である。出荷ベースは、出荷時点の価格を基準とした契約方式である。地方部では、東京地区のように工期の長い物件が少ないことや、出荷ベースと契約ベースが混在しているケースがあるため、東京地区のように厳格に適用している地区は多くない。
質問 8	入稿情報表の「浮棧橋－ブランド品－」にある「浮棧橋セパレート型」は、本州は価格上伸しているが、北海道地区と沖縄地区は下落している。どのような背景があるのか。	「浮棧橋セパレート型」は、特定メーカーのブランド品であり、当該メーカーが販売戦略として、製品価格改定を契機に本州を値上げし、北海道地区と沖縄地区は値下げすることで地区間格差の見直しを実施したためである。
質問 9	主要資材価格動向における近畿地区の再生砕石（大津）の市況コメントに、「野洲栗東バイパス工事向けの需要が急増」とあるが、需要が急に増加した要因は何か。また、再生砕石以外の資材で需要が急増しているようなものはあるのか。	大津地区では新設バイパス工事向けで路盤材となる再生砕石の需要が急増している。再生砕石の原材料となる解体廃材を集めるのに、地元に限らず近隣都市の京都地区などから収集するなど、他の資材と比較しても需要がひっ迫している状況となっている。なお、他の資材についても需要は増加しているものの、ひっ迫するまでには至っていない。
質問 10	主要資材価格動向における九州・沖縄地区のレディーミクストコンクリート（菊池）について、当該地区は、半導体工場の建設などの地域全体の活性化により建設資材の需要が増加して値上げが浸透したということか。また、レディーミクストコンクリート以外にも需要が増加しているものはあるのか。	菊池地区のレディーミクストコンクリートは、半導体関連の周辺施設の整備もあり需要が増える事が予測されているなか、製造コストアップ分を反映した値上げが浸透した。レディーミクストコンクリート以外の資材についても需要は増加しているものの、市況に大きな影響が出るほどの状況ではない。
質問 11	主要建設資材の需給及び価格動向における再生砕石（東京17区）について、価格が下落した要因と今後の見通しを伺いたい。	東京17区地区は、廃材の受け入れ量に対して再生砕石の需要が低迷しているなか、メーカーが在庫の解消を優先して製品価格を下げたことで市況が下落した。今後の見通しは、廃材の受入料金を値上げする動きはみられるが、再生砕石の市況は横ばいの見込みである。
審議結果	「建設物価」12月号、「Web 建設物価」12月号の価格動向に問題はなかった。	

以上